ASSIST

2019.4.1/Vol.16

芽吹く未来へ

社会福祉法人 萌葱の郷
自閉症総合支援センター
子育て総合支援センター

新元号元年に思う

理事長　五十嵐　康　郎

平成2年9月に法人認可を受けましたので、法人設立から29年目になります。法人広報誌が発行される頃には、新しい元号が発表されると思いますが、紀元前660年に神武天皇が即位し、西暦645年に「大化」と元号が定められて以来、「平成」に至るまでに247の元号と1370年余の歴史があります。過去に中国や韓国も元号を使った時代がありましたが、今では日本が元号を使う世界で唯一の国です。

元号は廃止すべきだという意見もあるようですが、私は誕生日も元号で記憶しており、西暦何年なのかは換算表を見なければわからないなど、元号が日々の生活や意識に深く結びついています。

その時々で実質的な権力者は代わりましたが、2679年の天皇制（王室）と1370年余にわたる元号の歴史があることは、日本が周囲を自然の要害である海に囲まれて容易に外国に侵略されることがなかったこと、国民の教育水準が高く、巧みに外国文化を取り入れつつ、聖徳太子の「和をもって尊しとなす」に代表される日本独自の歴史と文化を醸成したことが主な理由だと思います。

世界に目を向けると、貧困と殺戮や恐怖などの多くの不幸に満ちていますが、日本には思想の自由があり、テロや大量殺戮も殆どなく、時に「平和ぼけ」と揶揄されるように平和と豊かさを享受しています。

明日の命をも知れない国や地域、平和で豊かな日本、いずれの国に生まれるかは自分の意思で決められるわけではありません。私は日本に生まれたことを幸せに思うとともに大変ありがたいことだと感謝しています。
こう考えると人種や宗教や思想の違い、障碍の有無、知的優劣や貧富の差などにより、他者を差別したり、排斥することは実に愚かなことだと思われます。自閉症や発達障碍などの人々に接してきたことで、このような考えを持つことができたと思っています。

海に浮かんでいるとき、3メートルの深さも3000メートルの深さも溺れて命を失うことは同じであり、経済的にさほど不自由なく、暮らしが成り立てば充分幸せだと思うのですが、新自由主義や競争原理が持ち込まれたことにより、何十億という所得を得るごく少数の者がいる一方で、年間所得二百万にも満たない多くの貧困層が生み出されています。ゴーン日産元会長兼CEO逮捕のニュースを見ていると報酬額を少なく見積もって脱税したり、会社の公金を個人的な支出に充てたり、金銭的に豊かであることが、必ずしも人間としての豊かさや人格に結び付くわけではないことを感じざるを得ません。

「福祉の仕事」がビジネス化したことによって、搾取や虐待などの様々な問題が生じています。特に虐待を受ける障碍者の半数以上が自閉症や知的障碍者であり、社会的弱者が犠牲になっています。新元号元年が人種や宗教や思想の違い、障碍の有無などによる差別や排斥ではなく、寛容と融和の時代になることを切に願っています。

マレーシア研修旅行

社会福祉法人萌葱の郷　五十嵐　猛

平成30年12月19日～23日の5日間の日程で九州ブロック社会福祉法人経営青年会主催によるマレーシア・シンガポール研修に参加させていただきました。

本研修は、これから社会福祉法人を担っていく経営者が一同に集い、国内外における福祉の見識を高めるだけでなく、次世代の経営を見据えた情報交換や親交を深めるために企画されたものです。経営者の集団というだけあり、参加者のみなさんから参考になる話をたくさん伺うことができました。その中でも特に、福祉業界にて大きな課題となっている人材不足に向けて外国人労働者への理解を深めることができました。現地の方々と触れ合う中でも、マレーシアは東南アジアの人々が集う多民族国家であるにも関わらず民族同士の衝突が少なく、今の日本には薄れてきている融和的な雰囲気が街全体に流れていることを肌で感じました。

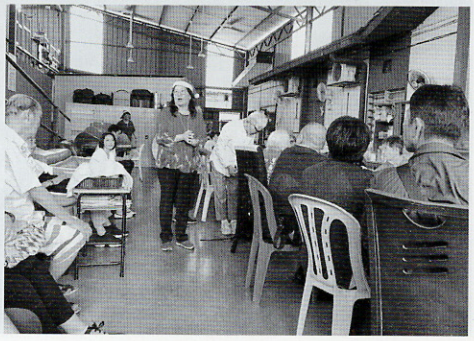
私が本研修会に参加した理由のもう一つに、自分の恩師でもある故石井哲夫先生（元日本自閉症協会会長、社会事業大学名誉教授）がマレーシアの施設を長らく支援されていたお話を伺っており、ずっと関心を有していたという経緯があります。石井先生が支援されていた施設はペナン島にあるため、今回のツアーで足を運ぶことはできませんでしたが、現地の施設案内を受けてくださり、石井先生の研究にも参加されていた内海明美さん（Asia Community Service）から、マレーシアの福祉動向について詳しくお話を伺うことができました。内海さんとの話の中で「マレーシアの福祉はアメージングである」と例えられていた通り、マレーシアには福祉的な援助への賛同者が多く、民間の融資だけで施設経営を成り立たせているといった話に驚きと羨望の念を持ちました。ここでは、日本の石井十次氏や石井亮一氏がご活躍されていた時代の実践がまさに行われており、障がい者に向けた支援制度が未熟な中でも多民族国家であるせいか、インクルーシブやユニヴァーサルな視点が国民に深く根付いていることから、石井先生が提唱されている社会的関係論である「受容的交流」の空気が自然に流れていました。

実際に見学したマレーシアの施設でも、私たちの福祉事業を見直す内容がたくさんありました。最初に案内していただいた施設は、2005年にマレーシアで初めて知的障害者協会として登録され、知的障がい者の当事者会として全国の当事者会の必要性や権利擁護などを行っているUnited Voiceという団体でした。ポリシーに「セルフアドボガシー」を掲げて団体の運営や施設の案内を当事者の方がされており、こうしたポリシーのもとで事業が進められていることを私たちの団体でも見直せる機会となりました。

日中の活動は、主として手工芸やアート制作が行われており、作品のクオリティーがとても高いことと、即売を通して当事者に代金が還元されることもシンプルにつながっていることなど、当事者を中心においた自由な発想で運営されている様子が多々見られました。外勤されている当事者の方には、ジョブコーチのようなサポート体制も整えられており、内勤と外勤との間をご本人の希望に応じて自由に切り替えやすい点等は、わが国のように福祉制度が整っている反面、それが壁となって支援が進みにくくなってしまう辛さも兼ね備えていることをあらためて認識させられました。

もう一ケ所、牧師によって設立された恩恵之家（Rumah Charis）では路上生活者などの身寄りのない老人を受け入れている施設と児童養護施設を有しており、経営はすべて民間からの補助に頼るものでした。経営者自身も里親のような形で身寄りのない子どもの養育もしており、高齢者に囲まれた中で一緒に生活をしていました。施設を案内してくださった方の中には、先のUnited Voiceの支援を受けながら就労されている知的障がい者の方がいました。そこの施設は、わが国のように生活備品が整わない中でも、物欲を全く感じさせず、施設全体にファミリーとしてのゆっくりと、温かみのある時間が流れていました。

福祉制度や国家的予算が発展途上である中、どちらの団体も関係、協力者も志のある方ばかりであり、虐待の問題やリスクマネジメント等に追われるよりも、遥かに豊かな日常が流れていることを強く意識しました。「福祉施設処遇は、人間の善意と技術の集積とによる」という石井哲夫先生のお言葉を顧みる機会としてだけでなく、新たに福祉の仕事に就く方々にとっても純粋に人々の善意、アジアに流れている受容的交流に触れられる機会として、今後も交流を深めていく価値があるものと思いました。



最後に、United Voiceならびに恩恵之家の皆様、視察研修中の通訳やコーディネーターとしてご尽力いただいた内海明美さん、このような貴重な機会をおつくりいただいた九州ブロック社会福祉法人経営青年会役員の皆様に感謝申し上げます。

萌葱の郷のアート活動について

社会福祉法人萌葱の郷　アート委員長　秋　月　正　博

最近、障がい者アートという言葉を耳にすることが増えました。以前は公共施設や小さなスペースで展示されることがほとんどでしたが、美術館やギャラリーなどで展覧会を行っているのを目にする機会が多くあります。めぶき園では、そういったブームが起こる前から、アート活動に力を入れて取り組んでいました。それは余暇活動という側面がある一方で、自閉症の人たちの言葉にできない内面世界を表現するための大事な時間であったのだと思います。そういった作品の集積が形になり、2016年6月28日～ 7月3日までの6日間、大分県立美術館でアトリエMOE "Art and LIFE" 展が開催され、延べ1517名の方にご来場いただき大盛況で幕を閉じました。このアトリエMOEプロジェクトをやりきったという経験と達成感がきっかけで、萌葱の郷ではアート活動に、より一層力を入れるようになりました。

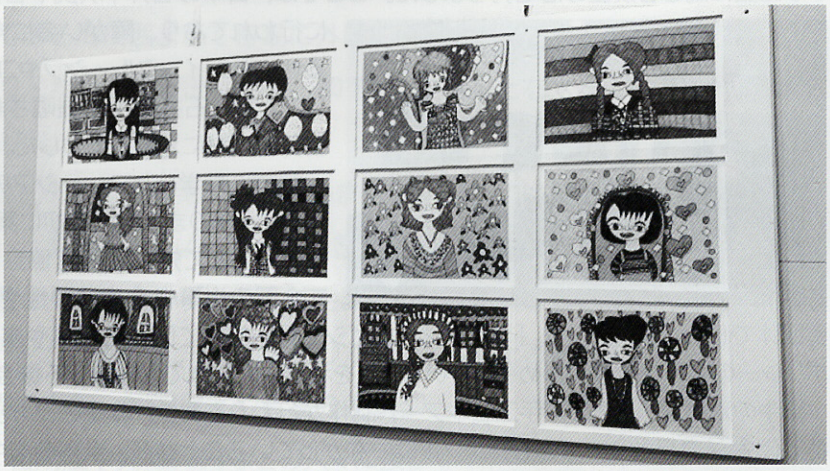
そして、今年度よりめぶき園・どんこの里いぬかい・なごみ工房の3事業所のアート担当職員でアート委員会を立ち上げて活動をスタートし、手探りながらも展示会を6回と販売会を4回開催しました。特に「省吾連」は、展示会という枠組みに捉われず、お客さんと一体になってアート作品を生み出すという新しい形を作り、多くの方から高い評価を頂きました。今の目標は第2回アトリエMOE "Art and LIFE" 展を開催することです。第1回はめぶき園の利用者にスポットを当てての開催となりましたが、第2回はアート委員で開催できることを目指しています。

ほのぼのおおのラブライブアート作品展『MIX DROP』

場所　エイトピアおおの

日時　平成30年9月1日・2日

大型屏風の作品や全長2mの展示物など大きな作品を多く展示しました。9月2日のラブライブ当日は販売会を開催し、展示・販売ともに盛り上がりました。



障がい者施設アート作品展『自閉症の世界へようこそ』（国民文化祭関連行事）

場所　九州電力㈱大分支社本館　日時　平成30年10月6日～12日

展示場所を見たアート講師の木村秀和先生がイメージを膨らませ、織物と陶芸を中心とした展示会を行いました。2階から全長5mの織物を展示し、その美しさが話題となりました。

実りの里芸術祭展示会（国民文化祭関連行事）

場所 **エイトピアおおの**

日時 **平成30年10月30日～11月19日**

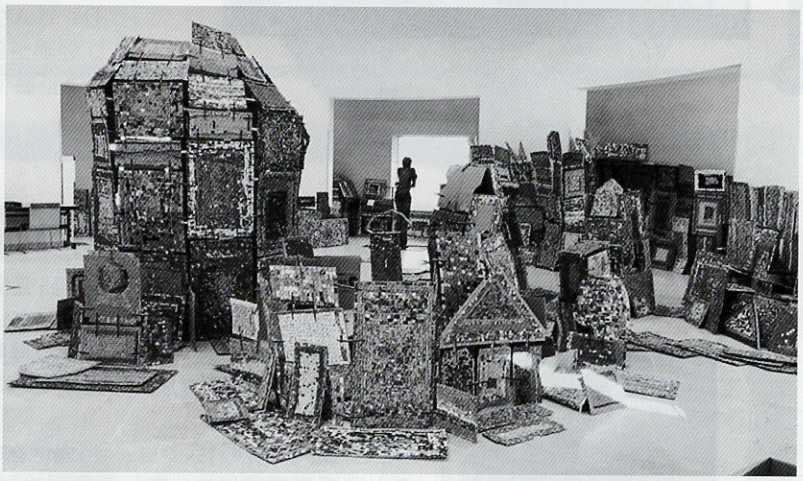
「地域の文化芸術の結集！次世代への継承！」がサブテーマの芸術祭。3事業所の全ての利用者合計 58 名の作品を展示するという初めての試みを行いました。

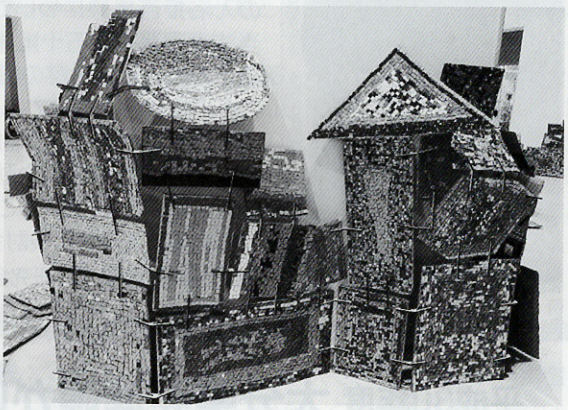
省吾連

場所 **大分市美術館**

日時 **平成30年11月17日～25日**

めぶき園の佐藤省吾さんのダンボールモザイクのアート作品を『遊べる』作品にしよう！とアート講師の木村秀和先生の構想で開催しました。ジョイントを使い来場者が思い思いに組み立てて、家やトンネル、ひまわりの造形物など多くのアート作品が生まれました。





●その他2018年度の活動

活動名	開催場所	開催期間	内容
Light It Up Blue展示会	J:COM ホルトホールおおいた	4月5日～4月8日	初めて3事業所合同で開催する展示会ということで構想・準備に3ヶ月をかけて臨みました。同時に開催された販売会も大好評でした。
全国障がい者作品展	大分県立美術館OPAM	11月9日～11月18日	国民文化祭関連行事として、全国の障がいのある方の作品と一緒に展示をしました。
ヒューレおおいた展示会	J:COM ホルトホールおおいた	11月1日～11月30日	Light It Up Blue展示会の大反響で、作品の一部を再展示しました。

もえぎの郷 地域交流祭『がんばるもん』

平成30年11月3日（土）に当法人のなかよしホール周辺にて、第3回もえぎの郷地域交流祭「がんばるもん」を開催致しました。今回は、昨年が寒かったということもあり、開催日を11月上旬に変更し、開催させて頂きました。

当日は天候にも恵まれ、客席の数を増やしたことにより、模擬店や当法人の生産物コーナー等盛況であり、昨年を超える来場者数となりました。また、出演していただいた方々のおかげで大盛況の催しとなり、事故やトラブル等も無く、無事に祭りを終えることができました。

年々認知度も上がってきている中、将来的には犬飼町の恒例行事の一つになればと考えております。

今後もスタッフ一同、力を合わせて地域に根差した事業所を目指して頑張ってまいりますので社会福法人萌葱の郷をこれからもどうぞよろしくお願い致します。

最後に、地域交流祭を開催するにあたり、テントをお貸し頂いた犬飼小学校様、臨時駐車場として場所を提供してくださった大分県畜産公社様に御礼申し上げるとともに、ご協力ご協賛賜りました皆様方に重ねて御礼申し上げます。

もえぎの郷 地域交流祭「がんばるもん」実行委員長
野 上 悦 生（めぶき園）

第43回 九州自閉症研究協議会　福岡大会

平成31年2月23日～24日に福岡大学において九州自閉症研究協議会が開催されました。大会テーマは「多様化する自閉症の課題」で、シンポジウム、講演、分科会、事例検討会と自閉スペクトラム症の理解と支援に関する基礎的事項から最新の知見にいたるまで幅広く学習できるプログラムでした。

2日目の事例検討会では、「自傷他害行為がある利用者の入浴拒否経緯について」の事例検討が行われました。当法人理事長の五十嵐康郎が助言者として登壇し、手ごたえのある活動内容の提供や職員数の問題、行動障がいの背景を具体的に分析することの重要性についてふれており、「具体的で一貫した」関わりの内容を明らかにすることによって相互の理解の促進につながることを参加者に伝えていました。また、関わりの中に心理劇や動作法の要素を取り入れたり、ミーティング等で簡単な事例検討の機会を設定することなど、明日から実践してみたくなるようなアドバイスがたくさん盛り込まれた検討会でした。

◀大分県発達障がい研究会会長の金子進之助先生と

平成30年度 大分県発達障がい者支援センター主催　講演会

平成31年3月2日、大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）において「PCAGIP法について～有効な事例検討会のすすめ方～」と題して、大正大学・心理社会学部教授の玉井邦夫先生を迎え講演会を開催しました。

「PCAGIP法」とは、守られた空間の中でグループメンバーの相互作用から問題解決に役立つヒントを生み出し、事例提供者の心理的成長を目指す事例検討法です。先生のお話の中で事例検討の本質的な目的は「支援者の認知の地図を少しだけ揺さぶって書き換える可能性を高めること」とあり、提供者をはじめ参加者が元気になる検討法だと感じました。当日は、大分県内の約200名の方にご参加いただきました。今後も充実した講演会を企画して参りますので皆様ご参加ください。

conversation with
いぬかいこども園 園長 佐藤任孝

話し手：**佐藤　任孝（＝佐）**

聞き手：**A**

A：本日はよろしくお願いします。

佐：ちょっと待って…。（リップを塗りながら）口がカサカサで小さい頃からリップクリームを離したことがなくて、『メンタム君』というあだ名がついていたんだよね～。

A：メンタム君ですか（笑）子どもの頃はどのような子どもだったんですか？

佐：幼少期は典型的な悪ガキでね。小学校1、2年の担任は女の先生で、あまりにひどく手が付けられないので、3年生の時に若い男の先生が担任になった。2年間で担任が変わる時代にその先生は「佐藤をどうにかする」って4年間も担任してくれて。

A：良い担任の先生に巡り合えましたね。

佐：そうなんよ！だから小学校時代の友達のお母さんが「任孝くんは何の仕事しよんの？」と聞かれて「福祉施設で働いています」と答えると「あの、任孝くんが福祉やってんの！？」とよく驚かれるよ（笑）

A：そんなヤンチャな佐藤少年が福祉の道に進んだきっかけは何ですか？

佐：3つ下に従弟がいて、その子が筋ジストロフィーだったんよ。小さい頃は一緒に遊んだりしてたけど、徐々に外で遊べなくなって。その後、車椅子での生活になり、車椅子にも乗れなくなって…、従弟をずっと見てきたことが、どこか自分の根っこのところにあり、こういう仕事をする出発点になったのかなと思ってる。大学に行き、母校から「野球部の監督で戻ってこい」と言われてたから、教育実習にも行ったんだけど。自分の中でずっと障がいへの思いがあり教員になるにしても障がいを学ぶ必要があるとの思いから別の大学に進んだ。その時に初めて関わったのが自閉症の子どもだったな。そこでは重度の自閉症の子の療育をほぼ週3、4回行い、1年間その子と関わって「自閉症は正直に生きる子どもたちなんだ」と強く感じたね。

A：今の佐藤さんがあるのは、従弟さんのおかげでもあるんですね。仕事を始めて辞めたいと思ったことはありますか？

佐：辞めたいとの思いは正直あった。特に夜勤の時とかいつも。不安な気持ちで出勤していた。自分が知ってる自閉症はどちらかというとおとなしくて、身体は大きく他害も少しはあるけど自傷がある子のイメージだったから、めぶき園に面接に来た時に大声を出して走っている利用者がいたので驚いたな。夜勤業務は、ほぼ1人で30人の利用者を見ないといけない状況はしんどかったね。早出の職員が来るのが待ち遠しかったし、慣れるまで2年くらいかかった。一番落ち込んで辞めようと思ったのは、利用者が自転車に乗っていなくなった時。事故にでもあったらどうしようって。探しに行って自分が見つけた時には安堵したのを今でも鮮明に覚えている。

A：自分の持っていたイメージと違うってのは、誰もが抱くものかもしれませんね。働く上で大事にしていることはありますか？

佐：チームワークかな。この仕事は一人では絶対にできない仕事だから。いかにチームとして、みんなで働ける環境を作っていくかだと思う。自分はカリスマ的に皆を引っ張っていくのは無理だと思っているからこそ、先ずは相手の話しを聞いて、良いチームになるためにはどうしたら良いのかを考えていくしかないと思っている。

A：すごく大事なことだと思います。人材育成で意識していることは何ですか？

佐：基本的には、まず知る。一人ひとり当然違うので、その人のキャラクターを知らないと、こちらの思いだけでは上手くいかない。その人のキャラクターを知った上で、どういう風に話しをするのか、どのように話しを組み立てた方が入りやすいのかを考えていく。その場で説明した方がいい人もいれば、一人ずつ時間をとって話した方がいい人もいるから気を付けているかな。

A：なるほど。人材育成で悩む事もあったので、参考にさせてもらいます。職員に求めることはありますか？

佐：できる、できないは二の次で、子ども達や利用者に対して「どうすればよいのか」という思いを持ち続け、諦めないようになってもらいたいな。「諦めます」と言っちゃたらこの仕事をやるべきではないと思っているね。

A：今後の目標や目指していくところは何ですか？

佐：大きな野望みたいなのはないけど、昨年度からこども園に配属されて、いぬかいこども園で生活する子ども達が「ここで良かった、楽しかった」と思って全員が卒園してもらえるのが一番。それだけでいい。ここで出会えた子ども達がそう思える場所を職員と一緒に作っていきたい。一人でもそう思えない子がいないようにしてあげたいと思う。

A：素敵ですね。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

佐：ありがとうございました。

平成30年度　研修委員会　年間活動報告

＊当法人では、ここに記載した研修委員会活動以外に事業所毎の研修も充実させています。

月	日	開催研修	内容・演題	講　師	会　場
4月	2日	キャリアパス研修①	「萌葱の郷の理念・これまでの歩み・展望について」	社会福祉法人萌葱の郷 理事長 五十嵐 康 郎	なかよしホール
	27日	キャリアパス研修②	「接遇マナー研修」	障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい 施設長 近 藤 暢 秀	なかよしホール
5月	12日	萌葱の郷実践研究会	自閉症・子育て総合支援センター 平成29年度 実践研究	大分メンタルヘルスネット 代表 中 村 廣 光 氏 他当法人職員	なかよしホール
	26日	キャリアパス研修③	「自閉症・発達障がいの基礎知識、心の理論について」	発達障がい者支援センター ECOAL副センター長 田 中 秀 征	なかよしホール
6月	29日	キャリアパス研修④	「ＡＥＤ・救急法」	豊後大野市消防署	なかよしホール
7月	6日	キャリアパス研修⑤	「てんかん発作について」	障害者支援施設 めぶき園 主任看護師 甲 斐 和歌子	なかよしホール
	29日	キャリアパス研修⑥	「事例検討会」	発表者 めぶき園 支援係長 能 一 由起子 いぬかいこども園 保育教諭 堀 あをい なかよしひろば 支援員 中 村 真 子	なかよしホール
9月	22日	キャリアパス研修⑦	「萌葱の郷の事業内容について」	萌葱の郷 統括施設長 五十嵐 猛	なかよしホール
11月	2日	キャリアパス研修⑧	「けが・体調不良時の処置について」	障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい 主任看護師 首 藤 千鶴代	なかよしホール
	22日	キャリアパス研修⑨	「合理的配慮について」	株式会社ミライロ 田 中 利 樹 氏	なかよしホール
1月	19日	キャリアパス研修⑩	「事例検討会」	発表者 どんこの里いぬかい 支援係長 工 藤 貴 志 大分なごみ園 主任補支援員 加 納 優	なかよしホール
2月	8日	防災研修会	「防災研修会」	大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 防災コーディネーター 板 井 幸 則 氏	なかよしホール
3月	16日	内定職員研修会	「先輩職員より」	ECOAL副センター長 田 中 秀 征 なかよしひろば 支援員 河 野 李 佳 どんこの里いぬかい 支援員 清 田 彩 華	稙田公民館

協力者御芳名

- 高橋歯科医院 院長 藤内せい子 様
- 安達 健一 様
- 株式会社 冨士設計 代表取締役 和田 繁 様
- 石井 啓 様
- 大久保損害保険事務所 様
- 有限会社 久保平自動車 様
- 有限会社 愛石油 様
- 株式会社 エコア大分支店 様
- 株式会社 柴田産業 様
- 株式会社 ダイプロ豊肥販売 様
- 有限会社 橋本書林 様
- 下の原自治会長 坂田 雄治 様
- 堀内 桂輔 様

豊後大野市

障害者支援施設 めぶき園（法人本部）
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
TEL097-578-0818
FAX097-578-0819
mebukien@moeginosato.net

いぬかいこども園
大分県豊後大野市犬飼町田原1419番地
TEL097-578-0706
FAX097-578-0710
inukai-hoikuen@moeginosato.net

グループホーム かわしま
大分県豊後大野市犬飼町下津尾3706-8
TEL097-578-0885

ホームヘルプサービスセンター らすかる
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
TEL097-578-1888
FAX097-578-0819
rasukaru@moeginosato.net

いぬかい子育て支援センター ゆうゆうキッズ
大分県豊後大野市犬飼町田原1416番地1
TEL097-578-0188
FAX097-578-0166
youyoukids@moeginosato.net

ライフサポートセンター なごみ園
大分県豊後大野市犬飼町大寒2149番地1
TEL097-586-8070
FAX097-586-8071
nagomi@moeginosato.net

障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい
大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8
TEL097-578-0077
FAX097-578-1226
donko@moeginosato.net

相談支援事業所 プラス
大分県豊後大野市犬飼町田原1416番地1
TEL097-578-0188
FAX097-578-0166
plus@moeginosato.net

こども発達・子育て支援センター なかよしひろば
大分県豊後大野市犬飼町田原1414番地1
TEL097-586-8811
FAX097-586-8818
nakayoshi@moeginosato.net

いぬかいこども園 なかよしホール
大分県豊後大野市犬飼町田原1421-40

大分市

こども発達支援センター 大分なごみ園
大分県大分市丹生210-3
TEL097-524-3636
FAX097-524-3637
ooitanagomien@moeginosato.net

こざい保育園
大分県大分市大字屋山1658-6
TEL097-528-9900
FAX097-528-9911
kozai@moeginosato.net

大分県発達障がい者支援センター ECOAL
大分県大分市中島西1丁目4番14号 市民の権利ビル202
TEL097-513-1880
FAX097-513-1890
ecoal@moeginosato.net

戸次なごみ園
大分県大分市中戸次4454-1
TEL097-578-8323
FAX097-578-8324
hetsuginagomi@moeginosato.net

編集後記

吹き抜ける風も心地よい季節になり、春の訪れや新しい出会いの中、「ASSIST Vol.16」を発刊することが出来ました。

この文章を執筆している今は、まだ新年号は分かりませんが、どのような年号になっているのか楽しみです。「未来は明るい！」という思いを私自身、信条にしていますが、未来に向けて、明るい気持ちになる年号（言葉）を期待しています。

新年度も、当法人萌葱の郷は、ライフステージを通して総合的に質の高い支援を提供していく所存でございます。今年度もどうぞよろしくお願いします。

発行者：社会福祉法人 萌葱の郷
大分県豊後大野市犬飼町
下津尾4355-10
TEL 097-578-0818

印刷所：株式会社 エポックアート